

平成 24 年 7 月 2 日

創立 111 周年記念式で石井社長が社員にメッセージ

—常に顧客の期待を超えるプロフェッショナルとして—

株式会社電通（石井 直社長）の創立 111 周年記念式が、7 月 2 日午前 10 時から、東京本社と、関西、中部の各支社で開催された。東京本社の 111 周年記念式は汐留本社ビル 1 階電通ホールで行われ、石井社長が電通グループ社員に所信を述べた。要旨は以下のとおり。



今年、電通は創業 111 周年を迎えることができた。ジャーナリズムの発展を通して、日本の近代化に寄与したいという志を持った一人の起業家が立ち上げた会社は、いまや世界で 28 の国と地域に拠点を持つ企業グループへと成長を遂げている。

ロンドンオリンピックの開幕が迫っているが、今日の電通グループを支えているのは、オリンピックビジネスをはじめ、先人たちが築き上げてきた強固な事業基盤にほかならない。私たちは、先人たちに倣って、未来に向けて、グループの事業基盤をより強固なものへと進化させる使命を担っており、また 10 年先、さらにはその先を見据え、自らの変革と挑戦を重ねる責務も有している。

そのような中、「ビジネスの起点である顧客の成長を支援するために、ありとあらゆる手を尽くし、常に顧客の期待を上回る仕事を目指す」という気風は、私たちが掲げる企業理念「Good Innovation.」の根底にある思想であり、電通グループのプロフェッショナルイズムのあり方そのものでもある。

一人一人が日々の仕事においてプロであることを目指すためには、自らの裁量を最大限に発揮し、自律的に行動する「自由」と、常に成果を出す「責任」の双方を、強く意識しなければならない。電通グループが 2 万人を超えるプロフェッショナル集団へと進化することができれば、独自の価値を発揮し続け、顧客から信頼され、選ばれ続ける存在になることができる。

改めて、電通グループ社員の一人一人がそれぞれの仕事でプロフェッショナルを目指してほしい。

東日本大震災から、1 年 3 カ月以上が経過したが、日本が一日も早く活力を取り戻すためにも、人々の復興に向けた強い意思を風化させてはならない。電通グループ、特に電通社員が復興への強い意思を持ち続けることも、私たちが果たすべき大きな責任である。

プロフェッショナルとして、未来に希望とイノベーションをもたらすべく、共に挑戦を重ねていこう。